

第3学年 国語科学習指導案

男子17名 女子14名 計31名
指導者 中川 昭一

- 1 単元名 せつめいのしかたを考えよう
 すがたをかえる大豆

2 単元について

(1) 教材について

教材文「すがたをかえる大豆」は、大豆がいろいろな食品に姿を変え、私たちの食生活に密接に関係していることを紹介している文章である。色も形も全く違う豆腐や味噌・醤油が、もとは同じ大豆からできていること、大豆の収穫時期や育て方を変えることで枝豆やもやしとして食べられていることなどに、子どもたちは驚きを感じながら読み進めるであろう。また、筆者はこのように多くの食べ方が考えられてきた理由とともに、自然からの恵みを大切にするために、いろいろな工夫を重ねてきた先人の知恵の深さについて触れている。この教材文を読むことで、子どもたちに身近な食べ物や食生活について振り返ったり、古代の知恵や工夫が現代まで受け継がれていることの意義を考えたりしてほしいと願っている。

本教材文は、大豆の味と栄養を保つための工夫としての加工の種類について、五つの事例で説明している典型的な解説型の文章である。その文章構成は、既習教材である「イルカのねむり方」「ありの行列」と同じく、「はじめ」「中」「終わり」という組み立てにはなっているが、それぞれの部分の内容は異なっている。「イルカのねむり方」「ありの行列」は、仮説・検証を報告する型の文章構成だが、「すがたをかえる大豆」は、解説型の文章であり、段落相互の関わり方や問いの有無など、1学期の2教材とは好対照をなしている。また、「中」の段落は並列の関係にあり、各段落の最初の文が、説明の中心となる文になっている。このような点に着目させることで、文章構成を意識して読む力や段落相互の関係をとらえる力を身に付けさせたい。

(2) 児童の実態

3年生になると、ただ身の回りの生き物やそのもの自体に興味をもつだけでなく、それがどんなものからできているのか、どんな働きをしているのか、他のものとどんな関係にあるのかなど、目に見えない仕組みについても関心をもつようになる。

本学級の子どもたちも好奇心旺盛で、いろいろなことに興味・関心をもつ子どもが多い。知りたいと思ったことは本などで調べたり、調べて分かったことについて、その真偽を確かめるために実際に自分で実験・観察してみたりするなど、興味をもった事柄に対する知的好奇心や意欲、関心は高い。本教材についても、自分の食生活をふり返って、本当にほぼ毎日口にしているのか、他に大豆を加工した食品はないか、など、「知りたい」「調べてみたい」といった思いを抱くと思われる。このような子どもの意欲や思いを大切にしながら学習を展開したい。

子どもたちは、説明的文章について、低学年で時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むことを学習してきた。このことを受けて、1学期に「イルカのねむり方」「ありの行列」の仮説・検証型の文章を学習した。その中で、子どもたちは段落に気をつけて読むことや「はじめ・中・終わり」といった文章全体の構成、「問い」と「答え」は何か、どのように「答え」を出したかを考えながら読むことなどを学習した。その結果、説明的文章を「はじめ」「中」「終

わり」の組み立てを意識しながら読むことはできるようになってきたが、叙述にある難しい語句や指示語に注意したり段落相互の関係を考えたりしながら読む力は身に付いていない。そこで、本単元では各段落の中心となる文やキーワードを押さえながら教材文を読んでいくことで、読み手に分かりやすい文章構成や段落相互の関係をとらえられるようにしたい。そして、単元の終末では、学習した説明文の書き方の工夫を意識しながら書くことで、要点をまず提示することや文をつなぐ言葉、段落相互の関係などを改めて意識して教材文を読み、学習内容をより定着させていくようにしたい。

(3) 指導の構え

説明文を読む意義は、今まで知らなかったことや気づかなかったことなどについて文章を読んで知り、新たな知識を得ることであると考え。本単元においても、説明の仕方の工夫や書きぶりに着目して読んでだけでなく、新しいことを知った驚きや感動、新たに生まれた疑問などといった思いも大切にしながら教材文を読み進めていきたい。そのため、本教材文では、「くふう」「すがた（食品名）」「へんしんの仕方（加工の仕方）」を手がかりに、中心となる文や語に目を向けながら段落相互の関係を考えたり、接続語の働きによって論理の展開をとらえたりしながら読んでいくとともに、筆者の考えである「昔の人々の知恵」に共感することができるようにしたい。

単元を貫く言語活動として、自分が興味・関心のある食べ物のひみつについて教材文の説明の仕方の工夫を参考に説明文を書くという活動を設定する。子どもたちは読み取ったことを生かして書くことを意識することで、教材文から何を読み取ったのかを意識し、内容の理解だけでなく、文章構成や段落相互のつながりにも気をつけて改めて読み取ろうとするであろう。そうすることによって、目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読む力を身に付けさせたい。

3 単元の目標

- ・中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係を考えながら、文章の内容を的確に理解することができる。
- ・内容を大きくまとめたり、必要なところは細かい点に注意したりしながら読むことができる。
- ・身近な食べ物について興味をもち、その食べ物に関連のある本を進んで読んだり調べたりしようとする。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> 文章の内容に関心を持ち、文章構成を理解しながら進んで読もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 中心となる文や大事な言葉に気をつけて音読している。 「問い」の形をとらない話題提示があることを理解し、中心文を確かめながら説明されていることを整理している。 「はじめ・中・終わり」の構成に注意し、「中」に書かれた具体例を整理しながら読んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章中の表現や言葉に注目し、辞書を使って調べている。 文章中に使われている接続語の働きを理解している。

5 研究仮説との関連

＜仮説1＞ 子どもたちが見通しをもって取り組めるように単元の構想を工夫することにより、主体的に追究を進めていくことができる。

○子どもがねらいをもって主体的に教材文を読むための「単元を貫く言語活動」の設定

単元を貫く言語活動として、自分が調べた食べ物について説明文を書き、互いに読み合っ感想を交流し合う「食べ物のひみつブックをつくろう」という活動を設定する。子どもたちは、教材文「すがたをかえる大豆」を読んでいろいろな食べ物の食べ方や加工の仕方などに興味をもつと考える。そこで、大豆のように、いろいろな食品にすがたをかえて食べられている食べ物を自分で調べ、分かったことを説明文にまとめる。

子どもたちは、教材文「すがたをかえる大豆」を読み、筆者の説明の仕方には、どのような工夫があるのかを考える。自分が説明文を書く際に、どのように書けば読み手に分かりやすい説明の仕方になるか、教材文の書きぶりや説明の仕方の工夫を手本にしようという意識で教材文を読むであろう。教材文の内容理解だけでなく、文章構成や段落相互の関係、一つの段落内の文と文のつながりなどについても目を向けて読み進めていけると考える。

単元の後半では、学習した説明の仕方の工夫を踏まえながら、自分で説明文を書いてみる。教材「食べ物のひみつを教えます」を読み、調べて分かったことをマッピングによって整理する。そして、作品例「すがたをかえる米」を「すがたをかえる大豆」と比べながら読む。「すがたをかえる大豆」では、変化の仕方（おいしく食べる工夫）を「中」の段落の第一文にもってきているが、作品例「すがたをかえる米」では、第1文が食品の種類になっている。そうした違いはあるものの、一事項一段落で書くこと、各段落において要点をまず提示すること、「はじめ・中・終わり」という文章構成、「まず」「次に」「さらに」といった接続の言葉で事例を列挙、文末表現など、説明の仕方における工夫は共通している。それを押さえたうえで説明文を書く活動に取り組ませたい。

○教材文の読み取りと調べたい食べ物に関する事典や図鑑、本などの並行読書

単元を貫く言語活動「食べ物のひみつブックをつくろう」に向けて、子どもたちは自分が興味のある食べ物について、食べ方の工夫や加工法などを事典や図鑑、本などを用いて調べる。本単元では、教材文「すがたをかえる大豆」の読み取り学習後に調べ活動を展開するのではなく、教材文の読み取り学習と並行して調べたい食べ物に関する事典や図鑑、本などを読んで情報収集する学習を構想する。

そうすることにより、子どもたちは教材文から学んだ分かりやすい説明の仕方を、自分が調べたことにつなげて具体的に考えられるとともに、単元を貫く言語活動を常に意識しながら学習に取り組めると考える。

<仮説2> 互いの読みや考えがかかわり合う場を工夫することによって、子どもは考えを深めることができる。

○互いの読みや考えの相違が明らかになる板書の工夫

教材文「すがたをかえる大豆」における「中」の具体例を読み取っていく際、子どもたちはそれぞれの生活体験をもとに、加工された食品に対して大豆と比べたときの違いや特徴などを考えたり感じたりしていると考えられる。大豆と「すがたをかえた食品」を比べ、その色や形、味などの変化に対する驚きを抱いていたり、叙述から加工の仕方に注目し、その手間や工夫の奥深さについて考えをもったり、子どもによって考えや思いは様々であると考えられる。その多様な考えの相違や共通点などを板書に構造化して表すことによって、友達の考えで自分の気付かなかった点や違いに着目し、自分の考えを見つめ直したり深めたりできるようにしたい。また、それぞれの加工の仕方や食品の具体例を比べながら読むことで、五つの加工の特徴を正確に読み取れるとともに、具体例の挙げる順番についても読み手を意識していることに気付くことができると思う。

○自分の考えを整理して全体の話し合いに臨むためのペアでの話し合い

互いの読みや考えをかかわらせ合う場として、ペアで互いの考えを交流し合う場を設定する。学級全体だけでなく、ペアで考えをかかわらせ合う場をもつことで、自分の考えはあるものの、発言に消極的であったり、恥ずかしさから発表に抵抗があったりする子どもも主体的に友達と考えを交流することができる。また、自分の考えを整理したり見つめ直したりすることにもつながり、学級全体で話し合う場に自分の考えをしっかりとって臨むことができると思う。

<仮説3> 学んだことを振り返り、考え方や感じ方を全体で共有することで、学んだことを次の学習に生かしていこうという意欲をもつことができる。

○学習したことを生かしたり比べたりしながら自分の考えを深めるための掲示物

教材文「すがたをかえる大豆」では、「中」に五つの大豆の加工の具体例が列挙してある。それぞれの具体例について、どのような工夫がされているのか、どんな食品に加工されているのかといったことを段落ごとに詳しく読み取っていきたい。また、それぞれの工夫や食品について、その特徴を比べながら考えることで、その工夫のよさや加工された食品と大豆の相違点などがより明らかになると考える。そのために、学習したことを掲示物にまとめ、教室に提示しておくことで、以前に学習したことを参考にしたり比べたりしながら自分の考えを見つめたり深めたりできるようにしていきたい。また、既習の説明文「イルカのねむり方」や「ありの行列」の文章構成や「問い」と「答え」の有無などについて学習したことを掲示し、本教材文との共通点や違いを明確にすることで、より一層文章構成や段落相互のつながりを意識して読んでいけるようにしたい。

6 全体計画（12時間 本時6／12時）

次	時間	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準			
				関	読	言	
第1次	1 ～ 3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「すがたをかえる」とはどういうことだろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・題名読みをする。 ・教材文「すがたをかえる大豆」を読み、初発の感想をもつ。 ・学習課題を設定し、学習の見通しをもつ。 ・自分が調べたい食べ物を決めて並行読書をしていくことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題名読みをして「すがたをかえる」とはどういうことか考える。 ・写真や実物などを提示し、叙述の内容理解を深められるようにする。 ・教材文を読んで初めて知ったことや感想を交流させ、食べ物や食べ方の工夫に対する興味・関心をもたせることで、本単元の学習の見通しをもてるようにする。 ・一人読みをしながら「工夫」「食品」がどこに書いてあるのかを書き込ませる。 	○			<p>【関】大豆がさまざまな食べ方をされていることに関心をもち、文章構成を理解しながら読もうとしている。</p> <p>【関】興味をもった食べ物について調べ、説明文を書くための見通しを立てようとしている。</p>
第2次	4 ～ 9	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">大豆はどのようにへんしん（すがたをかえる）しているのだろう</div> <p>○「はじめ」を読み、大豆の特徴を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はじめ」「中」「終わり」で説明されていることを整理しながら、文章全体の組み立てをとらえる。 ・「はじめ」の部分に書かれていることを読み取り、話題提示の役割を果たしていることを押さえる。 <p>○「中」を読み、それぞれのすがたをかえる工夫や加工の仕方について読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3～6段落で例示されている工夫と食品を整理し、その特徴や相違について読み取る。 (本時 第6時) ・段落内の文章構成（「工夫」「加工の仕方」「食品」の順に書かれている）をつかむ。 ・例を挙げる順番や写真の効果について考える。 <p>○「終わり」を読み、筆者の考えを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの食べ方が考えられてきた理由と、筆者の考えについて読み取る。 ・注意すべき語句・語法を学習する。 	<p style="text-align: center;">単元を貫く言語活動「食べ物のひみつブックをつくらう」</p> <p style="text-align: center;">《説明の仕方の工夫を見つけて》《並行読書》</p>		○	○	<p>【読】「問い」の形をとらない話題提示があることを理解し、文章で説明されていることを整理している。</p> <p>【読】「はじめ」「中」「終わり」の構成に注意して読んでいる。</p> <p>【読】「中」における「食べ方の工夫」と「食品」の例示を整理しながら読んでいる。</p> <p>【読】段落中の中心文をとらえている。</p> <p>【言】段落相互の関係を表すための接続語の役割を理解している。</p> <p>【読】写真の役割・効果について考えながら読んでいる。</p> <p>【言】文章中の表現や言葉に注目し、辞書を使って調べている。</p>
第3次	10 ～ 12	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">食べ物のひみつブックをつくる</div> <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい文の書き方に注意しながら、調べた食べ物について説明文を書く。 ・説明文を互いに読み合い、感想を交流し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「すがたをかえる大豆」で学習した構成やつながり言葉、文末表現などを参考にしながら書かせる。 ・内容についての感想だけでなく、自分の書き方と友達の書き方を比べ、上手に説明しているところはどこかという視点にも目を向けさせる。 		○		<p>【読】自分と友達の作品を比べ、上手に説明しているところに気づくことができる。</p>

7 本時の学習 (6 / 12 時)

(1) ねらい

- ・第5段落の文章構成を第3、4段落と比べながら、大豆からとうふを作るためにはいろいろな工程があることや、とうふに加工することのよさや特徴について読み取ることができる。

(2) 展開

学 習 活 動	指導上の留意点 (◆評価)
<p>1 本時の課題を確認する。(2分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">大豆はどのようにとうふにへんしんしているのかを読み取ろう</div> <p>2 第3段落から第5段落までを音読し、各段落の「食べ方の工夫」と「食品」を確認する。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの段落も、最初に工夫の仕方が書いてあった。 ・その後に、その工夫で食べられるものが例として紹介してあった。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; display: inline-block;">中心となる文を段落の最初に書いている工夫</div> <div style="margin-left: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">何について書かれている段落か、読み手に分かりやすい</div> </div> <p>3 大豆がとうふにへんしんするまでの過程について話し合う。(25分)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・一ばん水にひたす。 ・なめらかになるまですりつぶす。 ・水をくわえて、かきまぜながら熱する。 ・ぬのを使って中身をしぼり出す。 ・にがりというものをくわえてかためる。 </div> <div style="width: 65%;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> すごく手間をかけて作られている。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> きなこやに豆にくらべるとすごく手間がかかっているな。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> えいようだけを取り出しているから、健康や体にもいいのかな。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 色や形もずいぶん変わってしまった。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> とうふだと消化もよさそうだ。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> むかしの人は、よくこんな食べ方を思いついたな。ちえがつまっている。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・に豆やきなこに比べてとうふは作り方がたくさん書いてある。 ・それだけ手間がかかるということかな。 ・違う食品にする工夫が書いてあって、その後にはどうやってとうふになるのかが書いてあるんだ。 ・とうふという食品の名前は後の方に出てきたね。 ・工夫が書いてあって、その後に作り方が書かれているところは、第3、4段落と同じだ。 </div> </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block; margin-right: 10px;"> なめらかってどんな感じだろう。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> すりつぶすってつぶすと違うのかな。 </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> しぼり出したしるにえいようがあるということかな。 </div> </div>	<p>◆ 中心文が必ず段落の最初にあることを確認し、その分かりやすさに気づかせる。</p> <p>◆ とうふに加工するそれぞれの工程がよく分かるように映像や写真を提示する。</p> <p>◆ 第3、4段落と比べて、とうふに加工するには手間がかかっていることに着目させる。</p> <p>◆ それぞれの加工の工程がとうふのどんな特徴につながっているのかを考えさせることで、大豆との違いをより実感できるようにする。</p> <p>◆ とうふの食感や色、形など、体験から分かることを想起させることによって、叙述にあることが実感を伴って考えられるようにする。</p> <p>◆ 文章を正確に読み取り、内容を理解できるよう、難しい語句の意味をおさえていく。</p> <p>◆ 文章構成について考えるため、第3、4段落と比べ、同じところや違うところはどこかをペアで話し合ってから全体で話し合う。</p> <p>◆ 段落内にどんなことが書かれていたかを第3、4段落と比べながら考えさせることで、一事項一段落になっていることや文章構成に着目させる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆ 最初に工夫の仕方が書かれていて、その後にその工夫による食品例と加工の仕方が書かれていることが分かる。(発言・ノート)</p> <p>◆ とうふに加工することのよさや特徴について考えることができる。(発言・ノート)</p> </div>

(3) 授業観察の視点

- ・発問や板書は段落の文章構成をとらえたり、互いの考えの相違をとらえたりしながら読むための教師の支援として適切であったか。